

「いばらき県版こころの生活支援手帳―地域連携パス―」について

1 目的

精神障害をかかえたご本人が、いつもの自分、具合が悪いときの自分、そして希望など、自分自身について理解を深めるとともに、周りの支援者にも理解してもらうことによって、地域の中でより自分らしく生活することを応援します。

ご本人と支援者とが手帳を共有することによって、より連携を深め、ご本人に必要な支援が効果的にできるようになっていきます。

2 手帳の作成経過

この手帳は、国立精神・神経医療研究センター司法精神医学研究部が医療観察法指定医療機関に配布していた「毎日の生活を送るためのノート」等を参考に、筑西保健所管内地域移行支援連絡協議会が「こころの生活支援手帳―地域連携パス―」を作成しました。

平成28年度に、県内の保健所精神障害者地域移行支援連絡協議会等を通じて、手帳の試行的な実施と評価を行いました。

この度、国立精神・神経医療研究センター通院モニタリング研究チーム安藤久美子先生の指導・監修を受け、いばらき県版として完成しました。

著作権は、国立精神・神経医療研究センター通院モニタリング研究チームにあります。

3 入院中からの活用や通院中の活用について

- ・ご本人が入院中から、精神科医療機関のスタッフや地域の支援スタッフが、本人と面接しながら、自分の目標や強みを確認したり、薬の必要性や具合が悪くなる前に相談することの必要性などについて、一緒に考える機会を作っていたらと思います。
- ・また、すでに地域でデイケアや生活訓練等に通っている方、通院中の方に対しても、地域での支援が必要な場合には、上記同様手帳の活用を促していただけたらと思います。
- ・特に、クライシスプランの作成を通し、困難な状態になぜ陥ったのか、本人の注意サインと対処に係る考え等を聞き取り、ともに考えるというワークを通して、地域での暮らしを支えます。

4 手帳の使い方

- ・精神障害をかかえた方はもとより、ご家族や支援者がご本人の注意サインに気づき、早期に対処するためにお役立てください。
- ・この手帳はワークブック形式となっております。その時々に必要なページを追加することができるよう、バインダーでの使用をおすすめします。個人によってお使いになるページが異なると思いますので、適宜必要な項目を足すなど、ご本人に合った活用ができます。
- ・状況が変わるなどして新しいページが必要になったら、茨城県保健福祉部障害福祉課のホームページから印刷してお使いください。